

しまね学習支援プログラム

家庭教育支援を行う人のための

親学 プログラム



島根県教育委員会では、関係機関と連携し、新たに「親学プログラム2」を開発しました。平成23年に作成した「親学プログラム」とセットにして活用していただくことによって、それぞれの地域における家庭教育支援の気運がさらに醸成されていくことを期待しています。

島根県教育委員会

「親学プログラム」の活用が

「親学プログラム」とは…

「親学プログラム」は、親（保護者）や子どもにかかわる全ての方を対象に、親としての役割や子どもとのかかわり方についての気づきを促し、学校・家庭・地域が連携して、地域ぐるみで子育て世代を応援・支援するための**参加型の学習プログラム**です。

平成23年に作成した「親学プログラム」は、**わが子との関係性**の中で「**家庭内における親の学び**」を支援するものでした。

今回開発した「親学プログラム2」は、わが子だけでなく、「**よその子・よその親・学校・地域等との関係性**」も考えることができるようにし、「**家庭外、地域社会における親の学び**」を支援することに重点をおいています。

この2つのプログラムをセットにして活用し、親（保護者）や子どもにかかわる方々の現代版「子育てに関する井戸端会議」を活性化することで、地域ぐるみの家庭教育支援策が充実すると考えています。

現代版「子育てに関する井戸端会議」をそれぞれの地域で！

— 子育てについて『楽しく』『互いに』『体験的に』語り合うことができます —

参加者の声



ご近所の方や友達に助けてもらえることはどんどん頼んでみようと思いました。それで、私も誰かの役に立てることがあれば、スバラシイ☆と思います。

自分の子ども以外の子どもに対して、大人としての役割があることを感じました。小心者なので「一声かける」ができません。こともあると思いますが、勇気を出すためのきっかけになりました。

いろいろな人と話をするのはいいことだと思います。人とのつながりを大切にして、みんなで子どもたちを育てていく気持ちで頑張りたいと思います。



いろいろな考え方があり、多くの人と語り合いながら考えを深めていけました。また、だれもが同じように悩んでいることも感じました。

子どもが卒業したから自分も卒業ではなく、「地域の子どもと親」に積極的に関わりをもつことが、地域全体で子育てするためにも大切だと思いました。

グループのあたたかい雰囲気の中で、安心して話したり、聴いていただいたりしているうちに、いじめについて話しているのに、とてもあたたかい気持ちになりました。子どもたちにとっても、このようなあたたかい、安心した関係と時間が大切と思いました。

県内各地に広がっています!



安心して進行できる! 3点セット

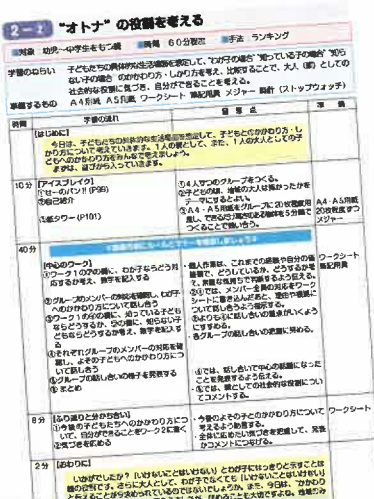
「親学プログラム」は、家庭教育支援を行う人が安心して進行できるように、1つ1つの学習プログラムを

① 進行表 (学習の流れ)

② 進行マニュアル (中心のワークのシナリオ)

③ ワークシート (参加者へ配付する用紙)

の3点セットで構成しています。



進行表

時間や内容・流れが一目でわかり、見通しをもって進めることができます。



進行マニュアル

セルフ入りの進行マニュアルをもとに、安心して進めることができます。



ワークシート

ワークシートはそのままコピーして使うことも、アレンジして使うこともできます。

巻末資料

アイスブレイクやプログラムを進行するうえでの留意点、参考資料があり、「親学プログラム」の活用の幅を広げることができます。

「親学プログラム」「親学プログラム2」は、保育所や幼稚園、小・中学校の保護者会、公民館等の講座、PTA研修、子育てサークル、青少年健全育成研修、企業の研修など、さまざまな場で活用されています。



プログラムの一例を紹介します!

「親学プログラム」

4-③ 「しかる基準は？」

子どものいろいろな生活場面に応じて、A-Eのうち、あなたなら、わが子にどうかかわるかについて、他の参加者と意見交換をしてみましょう。

わが子がお店や図書館の中で、
友だちと追いかけて遊んでいる。

あなたならどうする

- A 大声でしかる。
- B その場でしかり、どうしていけないかを真剣に伝える。
- C 注意を促す。
- D とりあえず様子を見守る。
- E その他[]

POINT

普段のわが子へのかかわり方を見つめ、異なる価値観にもふれることで、子育ての新たな気づきが広がります。

「親学プログラム2」

3-② 「いじめがおきない環境づくりのために」

いじめがおきない環境や地域をつくるために、「親としてできること・親として大切にしたいこと」をカードに記入しましょう。



POINT

子どもをめぐる社会的問題を、自分のこととしてとらえ、親として、大人としてできることを考えます。

親学 プログラムの 流れ

- アイスブレイク(簡単なゲームなど)で、場をなごませ、互いに活動しやすい雰囲気をつくり出します。
- まず個人で考え、そのあとにグループで共同作業・意見交換をします。
- 意見交換後、気づいたことや考えたことを、ふり返り、分かち合います。

「親学プログラム」は 7つのテーマ26プログラム で構成しています!

1 親としての心構え

- ① 新米ママ・パパへのメッセージ
- ② あなたならどうする?
- ③ 子どもに示したい大人のふるまい
- ④ 素晴らしき思春期

2 親子のコミュニケーション

- ① 聞く耳ってどんな耳?
- ② 子どもに伝えるのって難しい!
- ③ 私のほめ方・しかり方
- ④ 心に響く伝え方



3 生活リズム

- ① 目指せ! 早寝・早起き・朝ご飯
- ② 朝食は目覚めのスイッチ

4 しつけとルール

- ① 親のしつけは子どもへの大切な贈り物
- ② 我が家のルールづくり大作戦!
- ③ しかる基準は?
- ④ 誰が決めるの?
- ⑤ 子どもにとってのお手伝い
- ⑥ 子どもに本当に必要ですか?
- ⑦ 家庭学習の習慣をつけるために
- ⑧ ケータイ・インターネットとのつきあい方



5 安全と健康

- ① 身近なところに危険がいっぱい
- ② 危険箇所を考えよう
- ③ 食生活を見直そう



6 遊びと体験

- ① あそびのススメ
- ② 子どもにさせたい体験は?

7 個性と夢

- ① もし、子どもが〇〇で育ったら
- ② こんな子どもに育てほしい
- ③ わが子のPR~短所も長所~

「親学プログラム2」は 4つのテーマ20プログラム で構成しています!

1 様々なつながりをつくる

- ① みんなでつながろう(親子一緒に)
- ② 自分再発見!
- ③ あったか言葉が宝物
- ④ 先生といっしょに
- ⑤ みんなで子育て



2 親の社会的役割について考える

- ① こんな時、どうする
- ② “オトナ”の役割を考える
- ③ 〇〇地区の子どもたちに示したい大人のふるまい
- ④ 〇〇地区の子どもは、こんな子どもに育てほしい
- ⑤ 幸せってなんだろう



3 いじめ予防について考える

- ① われわれ大人にできること
- ② いじめがおきない環境づくりのために
- ③ SOSを見逃さない
- ④ ネットいじめから子どもを守る
- ⑤ もし、いじめがおこったら



4 児童虐待予防について考える

- ① すてきな子育て
- ② 子どもに届けよう、あなたの想い
- ③ こんな時、わたしなら…
- ④ 子どもの笑顔と未来のために
- ⑤ 「あたたかい眼差しを」
—虐待から子どもを守る—



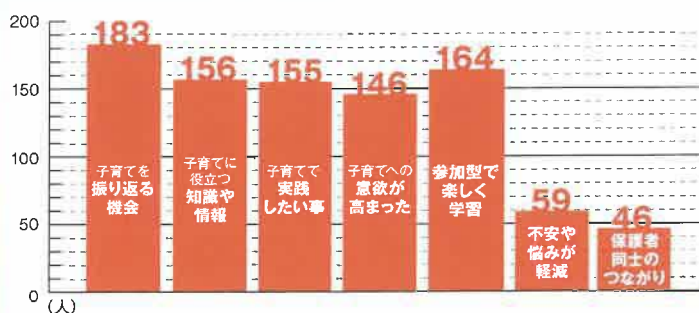
2つの「親学プログラム」を活かす!!

1.「親学プログラム」の教育的効果

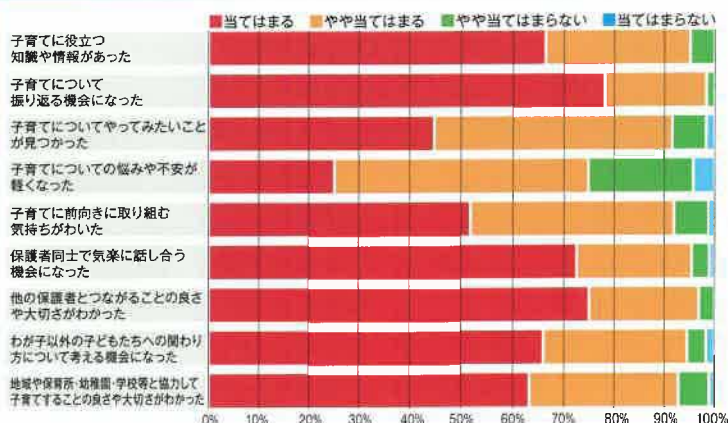
「親学プログラム」の教育的効果として、「子育てを振り返る機会になる」「子育てに役立つ知識・情報を得る」「子育てで実践したいことが見つかる」「子育てへの意欲が高まる」ということがあげられます。また、「参加型で楽しく学べることも、この教育的効果を高めていると考えています。さらに、「子育ての不安や悩みが軽減する」「親同士のつながりのきっかけになる」ということも副次的な効果としてあげられます。(図1)

「親学プログラム2」では、上記に加えて「保護者同士のつながりができた」「わが子以外の子どもたちとののかかわり方を考えることができた」「地域や保育所・幼稚園・学校等と協力して子育てすることの大切さがわかった」という声が多くあがっています。

このことから、「親学プログラム2」によって、より多くの親が、他の親や地域・学校等とのつながり、わが子以外の子どもたちとののかかわりの大切さに気づくことに繋がっていると言えます。(図2)



(図1)「親学プログラム」参加者の感想[自由記述:337]をテキストマイニングを用いて分析
協力・資料提供 松江市教育委員会生涯学習課



(図2) H26.27「親学プログラム2」試行実施アンケート結果[523名]を集計

2.「親学プログラム」の効果的な活用の提案

シリーズでの実施

“考える・行動する親集団”を育むために、「親学プログラム」「親学プログラム2」をセットにして、計画的、系統的に、段階をおった**シリーズでの実施**が効果的です。

他の活動と組み合わせ

親子活動や一日入学、乳幼児健診等、**他の活動と組み合わせ**て実施することで、より多くの方に参加していただくことや効果を高めることが期待できます。

事前事後

事前・事後を大切にすることで、より効果が高まります。例えば、事前の計画づくりや打合せの段階で、参加者の実態を語り合ったり、募集の工夫をしたりすることや、事後に参加者の変容を把握して次の活動を企画することなどが考えられます。

3. 実施にあたっては・・・

各市町村の担当課、または東部・西部社会教育研修センターへご相談ください。市町村の担当課は、県立東部・西部社会教育研修センターのホームページでご確認ください。

【お問い合わせ】

島根県立東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel (0853)67-9060 Fax (0853)69-1380
URL https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/

東部社会教育研修センター

検索

島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel (0855)24-9344 Fax (0855)24-9345
URL https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/

西部社会教育研修センター

検索